

第 3 回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成 27 年 10 月 13 日（火） 15:00 - 17:00

2. 場所：中央合同庁舎 8 号館内閣府会議室 429

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、松本委員、山崎委員

(2) 政府側

中村宇宙戦略室審議官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 平成 28 年度概算要求における宇宙関係予算について

資料 1 に基づき、事務局から平成 28 年度概算要求における宇宙関係予算の集計結果について報告を行った。その後、参考資料 1 に基づき、JAXA から平成 28 年度概算要求のうち、宇宙科学・探査について報告を行った。これらを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等、説明者等回答)

小型月着陸実証機は技術実証が主目的であると承知しているが、科学的な観測装置は載せないのか。また、どこにピンポイント着陸することを考えているのか。

ピンポイント着陸というミッションを最優先事項としつつも、イプシロンロケットの打ち上げ能力も踏まえながら、可能な範囲で観測装置を載せることも検討している。また、着陸地点については、JAXA 内で検討しているところである。

小型月着陸実証機で獲得する着陸技術は今後どのように生かされるのか。フォボス・ダイモス(火星衛星)サンプルリターンのプロジェクトにそのまま適用できると考えている。

平成 28 年度概算要求の施策のうち、「学術研究・実験等」については、平成 27 年度に対し若干の減額であるが、本施策では、具体的な実験を通じた大学院教育も含まれており、日本の宇宙分野の発展において、極めて重要な取組であるので、十分な予算を確保してしっかりと進めて欲しい。

(2) 宇宙科学・探査に関する工程表の改訂について

資料 2 等に基づき、事務局より、工程表改訂の進め方等について説明を行った。また、JAXA より資料 4 に基づき宇宙科学・探査分野工程表の取り組み状況について報告を行った。これらを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等、説明者等回答)

多様な小規模プロジェクトについては、海外大型計画への国際協力参画に重点化する方針を JAXA 内で考えているようであるが、それにより、学生がプロジェクトに参加しにくくなる等、人材育成の観点で影響が出ることや、相当のコスト分担を負うことのないように十分に留意していただきたい。

国際協力により得られたデータはどのように利用されるのか。
ほぼすべてのデータを全世界に公開し、広く使ってもらう場合や、コスト負担に応じてデータの利用権が与えられる等、様々な場合がありうる。

多様な小規模プロジェクトについては、プロジェクトが確実に実行されるよう、工程表にさらに具体的な記載をし、取組を後押しすべきである。

宇宙科学・探査における人材育成は、我が国の宇宙分野を支える基盤となることから、工程表に個別に記載し、取組がしっかりと行われるようにすべきである。

宇宙基本計画工程表のうち、宇宙科学・探査部分をどのように改訂するか等については、座長に一任することとなった。

以 上